

第1回玉名市総合計画策定審議会 議事録

日時	令和7年7月28日(月)13:30～
会場	玉名市役所4階 会議室
参加者	出席：入江委員、上村委員、大野委員、小山委員、後藤委員、齋土委員、坂口委員、崎山委員、澤田委員、杉本委員、高田委員、田畑委員、津田委員、永田委員、中野委員、中山委員、橋本委員、藤森委員、丸山委員、山崎委員、山本委員、渡邊委員 欠席：坂梨委員、本田委員

1. 開会

2. 委嘱状交付

小山委員に代表で委嘱状を交付。任期は当該委嘱に関する所掌事務が終了するまでとする。
本田委員と坂梨委員は欠席の連絡があり、発送をもって委嘱状の交付とする。
本日は委員半数以上が出席していることにより、審議会が成立することを報告する。

3. 市長挨拶

4. 会長及び副会長の選出

会長には澤田委員、副会長には本田委員（事前に承諾済）が、事務局一任のうえ選出された。

5. 諮問

市長から澤田会長へ諮問。

6. 会長挨拶

7. 委員及び事務局の紹介

8. 議題

事務局：澤田会長に議事の進行をお願いする。

会 長：委員会規則に沿って本会議は原則公開となっており、議事録についても要点をまとめ、公開することとなっている。本日は初回のため、総合計画の概要や今後のスケジュールが主な議題となり、計画内容については次回以降の審議となる。

(1) 総合計画の概要、策定体制、スケジュールについて

〈事務局より資料3、4、5の説明〉

会 長：今年度は基本構想、来年度は基本計画の審議となる。何か質問は。

一 同：なし

(2) 次期計画における変更点について

〈事務局より資料6－1・2の説明〉

会 長：では私から質問。総合計画と総合戦略の一体化にあたって、総合戦略については今年度から審議していくのか、来年度に入ってからになるのか。

事務局：現状では基本計画に総合戦略を落とし込む予定であるので、審議については来年度となることを検討している。

会 長：承知した。では各委員には来年度よりの審議となると認識をいただきたい。

委 員：地方創生1.0と2.0は大きくどのように違っているのか。2.0をどのように考え、議論すべきであるか。

会 長：行政学が専門のため私から説明を。1.0は人口減少に歯止めをかけることを主眼に地方の特色を活かした取組に対し、国が支援をしていた。その1.0は第1期5年間、第2期5年間の計10年間続いてきたところである。こうした地方創生1.0の振り返りとしては、十分に人口減少を正面から受け止めきれなかったという反省があった。今回の地方創生2.0においては、一定数の人口減少を受け入れたうえで地域の活力をどう維持していくかという点を重視している。そのためには今までの取組に加え、一人ひとりの生産性の向上を目指し、人材育成に力を入れていくことが示されている。また、地方創生1.0の時は、既存の地域振興策の焼き増しが多く、結果的に女性や若者への支援が不十分だったため、人口減少に歯止めをかけられなかった。地方創生2.0ではそうした子どもや女性への支援を前面に出すことが強調されている。この2点が大きな違いとして挙げられる。ほかにも多々あるので事務局でまとめていただきたい。

会 長：それでは、全体を通して何か質問はないか。

委 員：総合戦略についての詳しい話し合いは来年度とのことだったが、現行の総合戦略の評価報告は総合計画の評価報告と同じ次回の審議会で行うのか。

事務局：現行の総合戦略については毎年度、別の審議会において評価検証をしているところなので今回も例年と同じ形で実施する。その結果について、次回の本審議会で報告する予定はないが、来年度の総合戦略の審議の際に示していこうと考えている。

委 員：計画期間の変更について、市長の任期に合わせてというのは良いと思うが、計画更新の頻度が増えると思う。基本構想を12年とし、基本計画を4年ずつ3期に分け行う想定はなかったのか。

事務局：当初からその想定はなかった。県内の他市の状況を見ても、14 市中 10 市が基本構想 8 年基本計画各 4 年となっている。その流れを踏まえ、本市でも基本構想 8 年をベースとしている。

また、現行の後期計画策定のタイミングでは、コロナ渦で社会情勢が大きく変化していた時期であった。今回は社会情勢の変化に合わせられるように短くすべきという考えが前提にあった。

会 長：確かに昨今の社会情勢の変化が激しい状況である。更新頻度は上がり事務局は大変だろうと思うがよろしくをお願いしたい。

(3) その他

会 長：委員 1 人ずつ、専門分野等で感じる市政の課題等を伺いたい。

委 員：市の中での地域間格差が広がっている。行政区によっては過疎が進んでいるし、行政区での活動の負荷の度合いにも差があると感じている。行政区としての運営も課題となっているところだと感じている。踏み込んだ施策が必要ではないか。

委 員：先ほどの話の中でも若者や女性への支援が課題という話も出ている。言葉だけでなく現場の保育や若い保護者、女性やこどもの声も拾っていただきたい。

委 員：昨今では技能実習生等の外国人の数が増えている。その方たちのニーズや市民と楽しく住めるための一助ができればと思っている。外国人を含めた共生社会を目指したい。

委 員：地元の小学校の統合に伴い、閉校業務に関わった。その経験から、学校中心にまちが成り立っていたため、学校がなくなると新たな組織づくり等、地域づくりに課題が出るのではないかと感じる。

もうひとつは、情報リテラシーについての教育を学校だけではなく市として実施できればよいと思う。また、女性の働き方や生き方に目を向けていただければより良い市政になると思う。

委 員：玉名市における農業について、販路拡大等でもっと良くなると思う。また、人口減少対策として、商工業については魅力ある中小企業はたくさんあるので地元への周知がポイントになるのではないか。さらに、観光面でも立地を考えると福岡に目を向けると良いのではないか。

委 員：文化協会について、団体数は 60 あるものの、高齢化による指導者不足や会員数の減少が進んでいる。小中学校の部活動移行の話があるが、文化協会の所属団体が受け皿になることができれば、文化協会の活性化、子どもたちの選択肢増につながるのでそういった施策があれば面白いと思う。

委 員：県でも策定等行っているが、住民ニーズが多様化している中、玉名市だけでなく、熊本県や他市等との連携、住民等との共創をできれば良い

のでないかと思う。

委員：正直なところ、内容の理解が難しかった。だが、自分が魅力向上委員会で行っているまちづくりと似ている部分もあると感じた。各課の連携の推進や、いろんな会議体とも絡ませて施策を膨らませていけばいいのでないか。子育てについては、荒玉地区では6割程度の高校生が熊本市内に行ってしまう。魅力ある高校、魅力のあるまちづくりを行って、子どもにも目を向けていただきたい。

委員：自分の住んでいる地域では人口減少が進んでおり、子どもも減っている。小学校の統廃合が進むことで、地域の拠点がなくなるという不安があって、拠点を残してほしいという希望も多い。また、子どもが減ることで地域伝統行事や伝統文化の継続が難しくなる。自分の活動の中でも行事の子どもたちへの継承が難しくなっていると感じている。行事も減っていくことは仕方ないとは思いつつ、何かできないかと考えている。自分のいる地域は人の出入りが無く、最近若い人が出ていくばかりになってしまっている。もっと魅力のあるまちになって、地元に残る若者が増えればと思う。

委員：区に入らない世帯が多いことが問題となっている。特に、団地などの出入りが多い場所は区に入らない傾向が高い。そのため、区費の徴収も問題となっている。また、横島・天水地区等の過疎が進んでいる地区においては、区長等の役割を何年も続けなければならないなどの問題がある。

委員：子育て世代、高齢者、障がい者の支援を行っているが、コロナ禍が明け、外に出てきていただく機会が増えたが、出てくるための交通手段が無い。送迎の問題は課題であるが、すべての需要にこたえることは難しい。高齢者の交通手段の確保が問題であると思う。

委員：患者が熊本市内に流れ、経営が苦しいところも多い。しかし、玉名市に400床規模の病院がある、小児科も24時間やっているというのは暮らしの安心につながると思う。玉名の地で安心して暮らしていくには人材の確保がとても大事になると思うが看護師確保はとても大変である。市を挙げて人の流出を防ぎ、玉名市の持続可能性を高める取組が必要でないか。

委員：小中学校部活動の地域移行について、学校がノータッチとなっているように感じている。特に小学校は、子どもたちの送迎や子どもたちの居場所の問題に関わってくると思っている。また、生活困窮とスポーツの関係やスポーツ人口の減少についても気になっている。そういったところも計画に盛り込めればと思う。

委員：学校の魅力づくり、高齢者の移動手段の確保、部活動の地域移行など、自分たちの大学でも関われる部分があると思う。また、一見関係がないようでも視点を変えれば多くの分野にも関与できるのでないか。専門外の分野は他大学等と協力しつつ、自分たちの大学としてもまちづくりに貢献できる部分を探していきたい。総合計画は大きなものを描く計画だが、それをどう具体化できるかが焦点に

なってくると思う。

委員：活動の中で高齢化の影響で店の減少等を感じる。自分たちも地域の中で何かできないかと考えている。若い人が関われる魅力ある市にできればと思う。

委員：人材不足による人材確保が大変である。

委員：人口減少・少子高齢化が多くの分野に影響が出ている。若年層の社会減をどう対応していくかが課題であると思う。若者が定着する市になってほしいと思う。

委員：我々の協会は観光客のための協会ではなく、観光消費を支える事業者のための協会である。観光消費というのは観光客だけでなく地元の人の活動も影響している。活動するにも交通やネットワークが必要となるがライドシェアなど行政の規制による制限があるとも感じている。人口が少なくても豊かなまちづくりについて、人のつながりを支える飲食や交流があり続ける施策に盛り込めればと思う。

委員：全国各地で大規模な山火事の発生が続いている。大きな災害は常備消防だけでなく、消防団の活用が必要であるが、人口減少により消防団員も減少している。団員数の確保や消防団の活動内容の再検討が課題だと感じる。

委員：人口減少を正面から受け止め、何かしらのアクションによる関係人口の創出を期待したい。また、小さいころからの食育として、様々な活動を通じ、農業への理解を進めたい。全国からみても熊本は自給率が高い。玉名地域は供給地域として重要な役割があると感じているので農業においても玉名をしっかりと発信していきたい。

委員：若者の U ターン就職できるような地域の魅力づくりが重要だと思う。

会長：今でた意見等を踏まえ、事務局には今後検討を求める。事務局にお返しする。

事務局：最後に 1 点。次回より開催通知や事前資料等については、ペーパーレスの観点からメールにて送付を行いたい。対応可否等あると思うので希望によって進める予定。

9. 閉会